

笛吹市探訪 古墳のはなし その二

古墳のかたち

前方後円墳 山梨県最古の古墳は甲府市（旧中道町）の小平沢（こびらさわ）古墳です。前方後方墳で、4世紀中頃に造られました。この形の古墳は県内には他にありません。

小平沢古墳のあと、4世紀後半に前方後円墳の甲斐銚子塚古墳などが造られました。八代町にも岡・銚子塚古墳が造られました。

全国的に見ると前方後円墳は7世紀に入るところまで造られませんが、山梨県では5世紀後半の境川町藤袋の馬乗山2号墳（全長60メートル）が最後になります。

5世紀後半は、金文字入りの鉄剣（国宝）で有名な埼玉の稲荷山古墳（前方後円墳）が造られています。

帆立貝式古墳 古墳の中には帆立貝の形に似た前方部が極端に短い帆立貝式古墳があります。

八代町の狐塚古墳、団栗塚（ずんぐりづか）古墳は帆立貝式古墳であると考えられています。発掘調査は行われていませんが、狐塚古墳からは多くの埴輪片と、鉄刀、鉄剣、鉄銚（てつほこ 1）が採集されています。

団栗塚には遺体を埋葬する石室が2つあり、現在も蓋の石が見られます。銅鏡、鉄刀、鉄鏃（てつぞく 2）、玉類が埋められています。銅鏡は山梨県有形文化財の指定を受け、南北熊野神社が保管しています。

方墳 八代町米倉の台地先端部に竜塚古墳があります。平面形（3）は正方形で方墳と呼ばれます。

5世紀前半に造られたと考えられています。県内で確実に方墳と判明しているのは竜塚古墳だけです。

一辺の長さが56メートルあり、方墳としては全国的に見ても非常に大きな部類に入ります。高さは斜面上にあるため北側で12メートル、南側で6メートルとなっています。

円墳 全国にある古墳の大部分は円墳です。円墳は古墳時代を通して造られます。御坂町成田の亀甲塚（かめのこうづか）古墳は5世紀前半の円墳で（前方後円墳の可能性もある）、石室からは銅鏡、鉄刀、鉄銚、鉄鏃が出土しています。

5世紀中頃には石和町北西部の山裾に直径20〜30メートルの円墳が造営されました。中には「古墳

のまつり」が行われたことを示すおびただしい数の石製品や小形土器が出土した古墳もあります。

円墳はこのあと古墳後期の中心的墳形として造り続けられます。



「古墳のまつり」の跡（大蔵経寺前）

横穴式石室 古墳の遺体埋葬施設を「主体部」と呼びます。主体部は石、粘土、木材などで作る空間のことで、典型的なのが石室です。

主体部を墳丘の上から下に向かってつくるのが横穴式で、横穴式は古墳時代前期・中期の形式です。横穴式は後期になって普及する形式で、山梨県では6世紀中頃に導入されたと考えられています。御坂町二

之宮に巨大な横穴式石室をもつ円墳の姥塚（うばづか）古墳が築かれたのは6世紀後半です。横穴式石室は古墳時代終末期の小形円墳が数多く造られた群集墳でも採用され続けました。

群集墳と古墳時代の終わり

6世紀後半以降、小形円墳が密集して造られました。一宮町に国分古墳群、四ツ塚古墳群、石・千米寺古墳群、御坂町に長田古墳群、錦生古墳群、さらに春日居町や石和町の山岳部、八代町浅川下流沿い、境川町狐川中流沿いなどの斜面にも数十から百を超える数の円墳がまとまって造られました。多くが壊れてしまいましたが、むき出しの横穴式石室が現在も見られる所もあります。

春日居町のこの時期の古墳からは仏具と考えられる銅製の椀が見つかっています。古墳に代わって寺院が造られる新しい時代の始まりを告げるものです。

- 1 両刃の剣に柄をつけた、刺突のための鉄製の武器
- 2 鉄製のやじり
- 3 真上から見た形状のこと